

Ⅰ

1. Have you finished (studying) yet?

正解：studying 和訳： もう勉強は終わりましたか？

【解説】 動詞 finish (～を終える) の目的語 (「～すること」) には、不定詞 (to V) ではなく動名詞 (V-ing) を使わなければならないというルールがあります。英語の動詞の中には、後ろに動名詞しか取れないものがあり、代表的なものに enjoy (楽しむ)、stop (やめる)、finish (終える)、mind (気にする)、avoid (避ける) などがあります。したがって、to study や studied は不可となり、studying が正解です。

2. It stopped (raining).

正解：raining 和訳： 雨が降りやんだ。

【解説】 ここでも 1 問目と同様に、stop という動詞の性質がポイントです。stop V-ing で「～するのをやめる」という意味になります。注意点： stop to V (不定詞) という形もありますが、これは「(別のことをするために) 立ち止まって～する」という意味になってしまいます。もし It stopped to rain. とすると「雨を降らせるために (何かが) 立ち止まった」という不自然な意味になるため、ここでは raining が正解です。

3. She is fond of (making) dolls.

正解：making 和訳： 彼女は人形を作るのが好きです。

【解説】 be fond of ~ (～が好きである) という熟語の知識と、前置詞 (ここでは of) の後ろのルールが問われています。英語では、in, on, at, of などの「前置詞」の後ろには必ず「名詞」または「動名詞 (V-ing)」が来なければなりません。不定詞 (to V) や動詞の原形 (make) を置くことはできないため、動名詞の making が正解となります。

4. (Skiing) is a lot of fun.

正解：Skiing 和訳： スキーをすることはとても楽しい。

【解説】 文の主語になれるのは「名詞」の働きをする言葉だけです。動詞 (ski : スキーをする) を主語にするためには、「～すること」という形 (動名詞 V-ing または 不定詞 to V) にする必要があります。選択肢の中で名詞の働きができ、主語になれるのは動名詞の Skiing のみです。

5. Is your father good at (playing) golf?

正解：playing 和訳： あなたのお父さんはゴルフ (をするの) が得意ですか？

【解説】 3 問目と同じルールです。be good at ~ (～が得意である) という熟語において、at は前置詞です。前置詞の後ろには動名詞しか置けないため、原形の play や不定詞の to play ではなく、playing が正解になります。

6. Mrs. Carter often goes (shopping) with Mrs. Brown.

正解：shopping 和訳： カーター夫人はよくブラウン夫人と買い物に行きます。

【解説】 go V-ing で「～しに行く」というお決まりの表現 (慣用表現) です。go shopping (買い物に行く)、go fishing (釣りに行く)、go skiing (スキーに行く) などはセットで覚えておきましょう。なお、つづりにも注意が必要です。shop に -ing をつける際は、最後の子音を重ねて shopping とするのが正しいスペルです (shoping ではありません)。

7. He became more and more (interested) in it.

正解：interested 和訳： 彼はますますそれに興味を持つようになった。

【解説】 感情を表す動詞 (interest, surprise, excite など) の分詞 (-ing と -ed) の使い分けです。

- interested (過去分詞) : 「(人が) 興味を持たされている」= 「(人が) 興味を持っている」
- interesting (現在分詞) : 「(物事が人に) 興味をを起こさせる」= 「(物事が) 面白い」ここでは主語が He (人) であり、「彼自身が興味を持った」という感情の状態を表しているため、過去分詞の interested が正解です。be/become interested in ~ (～に興味がある/持つ) という熟語として覚えるのが効果的です。

8. I am very sorry I have kept you (waiting).

正解：waiting 和訳： お待たせしてしまって本当に申し訳ありません。

【解説】 keep + O + C (O を C のままにしておく) という第 5 文型の文です。O (目的語) には you が入り、C (補語) には分詞が入ります。you (あなた) と wait (待つ) の関係を考えたとき、「あなたが (自ら) 待っている」という能動の関係になるため、現在分詞の waiting を使います。「keep you waiting」で「あなたを待たせたままにしておく」という頻出の表現です。

9. My father was sitting with his legs (crossed).

正解：crossed 和訳：父は脚を組んで座っていた。

【解説】ここからは「付帯状況の with (～したままで、～しながら)」という少し高度な文法です。with + O (名詞) + C (分詞など) の形をとります。ポイントは、O (his legs : 彼の脚) と C (cross : 組む) の関係性です。脚は自らの意思で組むのではなく、「(人によって) 組まれる」ものですよね。このように受動の関係になる場合は、過去分詞の crossed を使います。

10. I can't write a letter with you (standing) there.

正解：standing 和訳：あなたにそこに立たれていると、私は手紙を書くことができません。

【解説】9問目と同じ「付帯状況の with」です。形は with + O (you) + C (stand) となります。今度は O (you : あなた) と C (stand : 立つ) の関係を考えます。「あなたが(自分の足で)立っている」という能動の関係が成り立つため、ここでは現在分詞の standing が正解となります。

2

1. He was busy (putting) cans of peas on a shelf.

正解：putting 和訳：彼は棚にエンドウ豆の缶詰を並べるのに忙しかった。

- 解説：ここでは「be busy -ing (～するのに忙しい)」という重要な動名詞の慣用表現が使われています。
- 選択肢の吟味：
 - 前置詞 in が省略された形 (be busy in -ing) の名残であるため、後ろには動詞の-ing 形が来ます (put や to put は不可)。
 - put の-ing 形は、短母音+子音字で終わる単語なので、最後の子音字 t を重ねて putting と綴るのが正しいルールです (puting はスペルミスです)。

2. We know that a lot of words (used) in other countries became a part of English.

正解：used 和訳：私たちは、他の国々で使われている多くの言葉が英語の一部になったことを知っている。

- 解説：接続詞 that の中身の文構造を見抜く問題です。that 節の中の主語は a lot of words、動詞(述語)は became です。したがって、カッコに入る語は動詞ではなく、直前の名詞 words を修飾する「分詞(形容詞の働き)」になります。

- 選択肢の吟味:

- 言葉 (words) は「(人によって) 使われる」という受動(受け身)の関係にあるため、過去分詞の used を選びます。「～している」という能動の現在分詞 using では意味が通りません。

3. I expected him (to come) and see me.

正解：to come 和訳：私は彼が私に会いに来ると思っていた(期待していた)。

- 解説：動詞 expect の語法問題です。「expect O to do (O が～するだろうと思う、期待する)」という形をとります。
- 文構造：主語(I) + 動詞(expected) + 目的語(him) + 補語(to come)。知覚動詞や使役動詞ではない一般的な動詞の多くは、このように to 不定詞 を補語にとります。

4. The (injured) man was carried to the hospital.

正解：injured 和訳：その負傷した男性は病院へ運ばれた。

- 解説：分詞が名詞(man)を前から修飾している形です。動詞 injure は「～を傷つける、負傷させる」という他動詞です。
- 選択肢の吟味：
 - 男性(man)は事故などによって「傷つけられた(負傷した)」という受動の関係になるため、過去分詞の injured (負傷した) が正解です。injuring だと「(誰かを) 傷つけている男性」という不自然な意味になってしまいます。

5. I had my right leg (hurt) in the accident.

正解：hurt 和訳：私はその事故で右脚を負傷した。

- 解説：使役動詞 have を使った「have + O + 過去分詞 (O を～される【被害】)」の構文です。
- 選択肢の吟味：
 - 右脚(my right leg)は「傷つけられる」という受動の関係です。動詞 hurt の活用は「hurt - hurt - hurt」と同形なので、過去分詞形の hurt を選びます。

- ※「have + O + 過去分詞」には他に「O を～してもらう【使役】」「O を～してしまう【完了】」の意味もありますが、ここでは文脈から【被害】を表しています。

6. I saw a rabbit (caught) in the trap.

正解：caught 和訳：私はウサギが罠に捕らえられているのを見た。

- 解説：知覚動詞 see を使った 「see + O + 過去分詞 (O が～されるのを見る)」 の構文です。
- 選択肢の吟味：
 - ウサギ (a rabbit) と捕まえる (catch) の関係を考えます。ウサギは罠によって「捕まえられる」という受動の関係なので、過去分詞の caught を選びます (catching だと「ウサギが (何かを) 捕まえている」状態になってしまいます)。

7. I could not make myself (understood).

正解：understood 和訳：私は自分の言いたいことを (相手に) 理解させることができなかった。(=私の英語は通じなかった)

- 解説：これは非常によく出る重要表現です。「make oneself understood」で「自分の考え (言葉) を相手に理解してもらう (通じさせる)」というイディオムとして覚えておくと便利です。
- 文法的な理由：直訳すると「自分自身 (myself) を、理解された (understood) 状態に、する (make)」となります。自分が理解するのではなく、「自分の言葉が (相手によって) 理解される」という受動関係であるため、過去分詞が来ます。

8. He tried to make himself (heard).

正解：heard 和訳：彼は自分の声を (相手に) 届けようとした。

- 解説：7 番の問題と同じ構造です。「make oneself heard」で「自分の声 (言うこと) を相手の耳に届かせる」という決まった表現です。
- 文法的な理由：「自分自身 (の声) が相手に聞かれる (heard) 状態にする」という受動のニュアンスを持つため、過去分詞の heard となります。騒音の中などで大声を出して気づいてもらおうとする状況などでよく使われます。

9. I heard someone (call) my name.

正解：call 和訳：私は誰かが私の名前を呼ぶのを聞いた。

- 解説：知覚動詞 hear の構文です。「hear + O + 動詞の原形 (O が～するのを聞く)」という形をとります。
- 選択肢の吟味：
 - 「誰か (someone)」が自発的に「呼ぶ」という能動の関係です。能動の場合は「動詞の原形 (～する)」か「現在分詞 (～している)」が来ますが、選択肢には現在分詞 (calling) がなく、原形不定詞の call があるため、これが正解となります。知覚動詞の目的格補語に to 不定詞 は使えません。

10. I heard my name (called).

正解：called 和訳：私は自分の名前が呼ばれるのを聞いた。

- 解説：9 番と対になる知覚動詞 hear の構文です。こちらは 「hear + O + 過去分詞 (O が～されるのを聞く)」 の形です。
- 選択肢の吟味：
 - 目的語が「私の名前 (my name)」になっています。名前は自ら呼ぶのではなく、人によって「呼ばれる」という受動の関係になります。したがって、過去分詞の called を選びます。

3

1. The ground was covered with (fallen) leaves.

- 完成した文：The ground was covered with fallen leaves.
- 日本語訳：地面は落ち葉で覆われていた。
- 解説：名詞 leaves (葉) を修飾する形にします。葉っぱが「すでに落ちてしまった」という完了の意味を表すため、過去分詞の fallen を使います。fallen leaves で「落ち葉」という決まり文句として覚えてしまうのもおすすめです。(※もし falling leaves にすると「今まさにヒラヒラと落ちている葉」になってしまい、地面を覆っている状況と矛盾してしまいます)

2. The teacher caught him (sleeping) in class.

- 完成した文：The teacher caught him sleeping in class.
- 日本語訳：先生は彼が授業中に眠っているのを見つけた。

- **解説:** <catch + O (目的語) + -ing> で「O が～しているところを見つける (捕まえる)」という構文になります。先生が見つけたとき、彼はまさに「眠っている最中」だったため、**進行**の意味を持つ現在分詞の **sleeping** が正解です。

3. She sat (surrounded) by her children.

- **完成した文:** She sat **surrounded** by her children.
- **日本語訳:** 彼女は子どもたちに囲まれて座っていた。
- **解説:** 彼女が「座っていた」時の状態を説明しています (これを付帯状況と呼びます)。surround は「～を囲む」という動詞です。彼女は子どもたちに「囲まれている」という受動 (受け身) の関係なので、過去分詞の **surrounded** を使います。後ろに by (～によって) があることも受動関係を見抜くヒントになります。

4. I want this work (done) quickly.

- **完成した文:** I want this work **done** quickly.
- **日本語訳:** 私はこの仕事を早く終わらせてほしい。
- **解説:** <want + O + 過去分詞> で「O を～された状態にしてほしい (O を～してもらいたい)」という意味になります。「仕事 (this work)」は誰かによって「される (終わられる)」ものなので、**受動**の意味を表す過去分詞の **done** が入ります。

5. She was afraid of (getting) wet in the rain.

- **完成した文:** She was afraid of **getting** wet in the rain.
- **日本語訳:** 彼女は雨に濡れるのを恐れていた。
- **解説:** of のような前置詞の後ろには、名詞か動名詞 (-ing) しか置くことができません。したがって、get を動名詞の **getting** に変化させます。get wet で「濡れる」という意味です。

6. Have you decided (to go) to Chicago?

- **完成した文:** Have you decided **to go** to Chicago?
- **日本語訳:** シカゴに行くことは決めましたか?
- **解説:** 動詞 decide (決める) の目的語には、動名詞 (-ing) ではなく**不定詞 (to V)**をとるというルールがあります。「これから～することを決める」という**未来志向**の動詞には、不定詞が結びつきやすいためです。

7. She promised (to stay) at the hotel till he came back.

- **完成した文:** She promised **to stay** at the hotel till he came back.
- **日本語訳:** 彼女は彼が戻ってくるまでそのホテルに滞在すると約束した。
- **解説:** 6 番の decide と同じく、promise (約束する) も「これから～することを約束する」という**未来志向**の動詞です。したがって、後ろには不定詞 (to V) の **to stay** が続きます。

8. Put the egg in (boiling) water.

- **完成した文:** Put the egg in **boiling** water.
- **日本語訳:** 卵を熱湯 (沸騰しているお湯) に入れなさい。
- **解説:** 水 (water) が今まさに「ボコボコと沸騰している」状態を表すため、**進行**の意味を持つ現在分詞の **boiling** を使います。boiling water で「熱湯」です。

9. They ate (boiled) eggs for breakfast.

- **完成した文:** They ate **boiled** eggs for breakfast.
- **日本語訳:** 彼らは朝食にゆで卵を食べた。
- **解説:** 8 番との対比問題です。卵 (eggs) は、すでに「ゆであがった (ゆでられた)」状態のものを食べるため、**完了・受動**の意味を持つ過去分詞の **boiled** を使います。boiled egg で「ゆで卵」となります。

修飾される名詞	分詞の形	意味のニュアンス	表現例
water (水)	boiling (現在分詞)	今まさに沸騰している (進行)	boiling water (熱湯)
egg (卵)	boiled (過去分詞)	すでにゆでられた (完了・受動)	boiled egg (ゆで卵)

10. I'm sorry to have kept you (waiting) so long.

- **完成した文:** I'm sorry to have kept you **waiting** so long.
- **日本語訳:** 長い間お待たせしてしまってすみません。
- **解説:** <keep + O + -ing> で「O を～させたままにしておく」という構文です。待っているのは「あなた (you)」であり、あなたが自発的に「待つ」という能動の関係なので、現在分詞の **waiting** が正解です。

1. He likes to ride a bicycle.

正解： He is (**fond**) (**of**) (**riding**) a bicycle. 和訳： 彼は自転車に乗るのが好きだ。

【解説】 「～するのが好きだ」という表現の書き換えです。

- like to do = **be fond of doing** という熟語が問われています。
- 前置詞 **of** の後ろには名詞（または動名詞）しか置けないため、**ride** を動名詞の **riding** に形を変える必要があります。

2. He went out of the room. He did not say good-by.

正解： He went out of the room (**without**) (**saying**) good-by. 和訳： 彼はさよならを言わずに部屋を出て行った。

【解説】 「～しないで」「～せずに」という付帯状況（あるいは手段の否定）を表す表現です。

- 2つの文を1つにまとめる際、**without doing**（～することなく）という前置詞＋動名詞の形を使います。
- did not say** を **without saying** に変換することで、意味を変えずに1文に接続できます。

3. He is a very good swimmer.

正解： He is very good (**at**) (**swimming**). 和訳： 彼はとても上手に泳ぐ。（彼は水泳がとても得意だ。）

【解説】 名詞表現から動詞（動名詞）表現への書き換えです。

- a good swimmer（良い泳ぎ手）ということは、「泳ぐのが得意」ということです。
- be good at doing**（～するのが得意だ）という熟語を使います。前置詞 **at** の後なので **swimming**（動名詞）になります（mを重ねるスペルに注意）。

4. The novel he wrote was published the other day.

正解： The novel (**written**) (**by**) him was published the other day. 和訳： 彼によって書かれたその小説は、先日出版された。

【解説】 関係代名詞の節を、分詞（過去分詞）の形容詞的用法に書き換える問題です。

- he wrote は目的格の関係代名詞（which/that）が省略された形で、「彼が書いた小説」となります。

- これを受け身の意味にして「彼によって書かれた小説」とするため、**過去分詞 written** + **動作主を示す by** を使って後ろから名詞（The novel）を修飾させます。

5. The man driving the car was drunk.

正解： The man (**who**) (**was**) driving the car was drunk. 和訳： その車を運転していた男は酔っ払っていた。

【解説】 現在分詞の形容詞的用法を、関係代名詞を使った節に書き換える問題です。

- 元の文の **driving the car** は、現在分詞が後ろから **The man** を修飾しています（車を運転している男）。
- これを関係代名詞を使って説明し直す場合、先行詞が「人」なので **who** を置きます。
- 全体の文の時制が **was drunk**（過去形）なので、関係詞節の中も過去進行形（**who** + **was** + **driving**）にします。

6. Somebody stole my shoes yesterday.

正解： I had (**my**) (**shoes**) (**stolen**) yesterday. 和訳： 私は昨日、靴を盗まれた。

【解説】 「（誰かに）～される」という【被害】を表す使役動詞の構文です。

- have(get) + O**（目的語）+ **過去分詞** で「Oを～される（被害）」または「Oを～してもらう（依頼）」という意味になります。
- 今回は「自分の靴（my shoes）が盗まれる（**stolen** : **steal** の過去分詞）」という被害状況なので、この語順になります。

7. It is not easy to speak fluent English.

正解： (**Speaking**) fluent English is not easy. 和訳： 流暢な英語を話すことは簡単ではない。

【解説】 形式主語（It）を使った構文から、動名詞を主語にした文への書き換えです。

- 元の文の **It** は仮の主語で、本当の主語は **to speak fluent English** です。
- 文の先頭に「英語を話すことは」という主語を直接持ってくる場合、**動名詞 Speaking**（または不定詞 **To speak**）を使います。※空欄が1つのため **Speaking** が適切です。

8. The dense fog made it impossible for us to go further.

正解： The dense fog (**prevented** / **kept** / **stopped**) us (**from**) (**going**) further. 和訳： 濃霧のせいで、私たちはそれ以上進むことができなかった。

【解説】 無生物主語の構文の書き換えで、頻出パターンです。

- 元文は make it impossible for A to do (A が～するのを不可能にする)。
- これを書き換える際は、prevent [keep / stop] + O + from doing (O が～するのを妨げる・～させない) という形を使います。
- 元文の動詞が made と過去形なので、最初の空欄は prevented, kept, stopped のいずれかの過去形が入ります。

9. This lion is three months old.

正解： This lion was (born) three months ago. 和訳： このライオンは3ヶ月前に生まれた。(生後3ヶ月だ。)

【解説】 年齢・生後の期間の言い換えです。

- 「生後3ヶ月 (3 months old)」ということは、「3ヶ月前 (three months ago) に生まれた」と言い換えることができます。
- 「生まれる」は受動態で be born と表現するため、過去形の was の後ろに born を補います。

10. She has been married to him for a decade now.

正解： It is (ten) years since she (got / became) married to him. 和訳： 彼女が彼と結婚してから10年になる。

【解説】 期間の表現と、「状態」と「動作」の使い分けを問う問題です。

- まず a decade は「10年間」という意味なので、ten years に変換します。
- It is ~ years since ... (...してから～年になる)の構文では、since の後ろは「(過去の)動作・変化が起きた時点」を置く必要があります。
- be married は「結婚している(状態)」ですが、過去形にする際は「結婚した(動作・変化)」を表す got married または became married を使います。

11. Thank you for helping me with my homework.

正解： It is (kind / nice) (of) you (to) help me with my homework. 和訳： 私の宿題を手伝ってくれてありがとう。(手伝ってくれるなんて親切ですね。)

【解説】 感謝を表す表現の言い換えです。

- It is kind[nice] of 人 to do で「～するとは(人)は親切だ(=～してくれてありがとう)」という意味になります。

- 人を意味上の主語とする際、通常は for を使いますが、kind, nice, clever, stupid など「人の性質・性格」を表す形容詞が来る場合は、for ではなく of を使うのが絶対のルールです。

12. What do you say to going on a hike next Sunday?

正解： How (about) (going) on a hike next Sunday? 和訳： 今度のふたたび日曜日にハイキングに行くのはどうですか？

【解説】 相手を誘う・提案する表現の書き換えです。

- What do you say to doing? は「～するのはどうですか？」という熟語です(この to は前置詞なので後ろは動名詞になります)。
- これと全く同じ意味・構造を持つのが How about doing? です。こちらも about が前置詞なので、動詞は必ず動名詞(going)になります。

5

1. 彼は壊れた腕時計を持っています。

[watch, has, broken, a, he]

【考え方のステップ】

1. 主語と動詞を決める

まずは文の骨格である「誰が」「どうする」を作ります。この文では「彼は持っています」がベースになるので、He has から始めます。

2. 目的語(何を持っているか)を作る

彼が持っているのは「腕時計(a watch)」ですが、ただの時計ではなく「壊れた」腕時計です。「壊す(break)」の過去分詞形 broken は、「壊された→壊れた」という形容詞の働きをします。

3. 修飾語の位置に注意する

分詞(broken)が単独で名詞を修飾する場合は、普通の形容詞と同じように名詞の前に置きます。したがって、「壊れた腕時計」は a broken watch となります。

【正解の英文】

He has a broken watch.

2. あそこで泣いている少女はメアリーです。

[the, over, crying, girl, is, there, Mary]

【考え方のステップ】

1. メインの文を作る

この文の基本構造は「(その) 少女はメアリーです」なので、**The girl is Mary** が骨格になります。

2. 修飾部分（どんな少女か）を作る

「あそこで泣いている」という説明を少女 (The girl) に付け加えます。「泣いている」は現在分詞の **crying**、「あそこで」は **over there** です。

3. 修飾語の位置に注意する

第1問とは異なり、「crying over there」という **2語以上のカタマリ** で名詞を説明する場合、英語では必ず **名詞の後ろ** に置きます。したがって「あそこで泣いている少女」は The girl (crying over there) となります。

【正解の英文】

The girl crying over there is Mary.

3. 彼が書いた本はとても面白い。

[written, are, interesting, the, by, books, him, very]

【考え方のステップ】

1. メインの文を作る

基本構造は「(その) 本はとても面白い」です。主語が複数形 (books) なので、be 動詞は **are** を使い、**The books are very interesting** となります。

2. 修飾部分（どんな本か）を作る

「彼が書いた (彼によって書かれた)」という説明を本 (The books) に付け加えます。「書かれた」は過去分詞の **written**、「彼によって」は **by him** です。

3. 修飾語の位置に注意する

第2問と同じルールです。「written by him」という **2語以上のカタマリ** で名詞を説明するため、名詞の後ろに置きます。したがって「彼によって書かれた本」は The books (written by him) となります。

【正解の英文】

The books written by him are very interesting.

4. 泳ぐことは一番いい運動です。

[the, swimming, is, of, exercise, best, kind]

【考え方のステップ】

1. 主語と動詞を決める

「泳ぐこと」は動名詞を使って **Swimming** とします。「～です」は be 動詞を使うので、**Swimming is** が文のスタートです。

2. 補語（何であるか）を作る

残りの単語で「一番いい運動」を作ります。「一番いい」は最上級の **the best** です。「～の種類」を表すときに **kind of～** という表現を使います。

3. 要素を組み合わせる

「一番いい種類」は the best kind となり、「運動 (exercise) の」をつなげると、**the best kind of exercise** (最も良い種類の運動＝一番いい運動) という表現が完成します。

【正解の英文】

Swimming is the best kind of exercise.

5. メアリーは何も言わずに部屋から出た。

[anything, Mary, room, without, left, the, saying]

【考え方のステップ】

1. メインの文を作る

「メアリーは部屋から出た (去った)」がメインのアクションです。「去る」の過去形 **left** を使って、**Mary left the room** とします。

2. 「～せずに」の表現を作る

「～せずに」という状況を付け加えるには、前置詞の **without** を使います。前置詞の後ろに動詞を置くときは、必ず動名詞 (～ing) にするルールがあるため、**without saying** (言わずに) となります。

3. 「何も～ない」の表現を作る

without はすでに否定のニュアンスを持っているため、あとに続く代名詞は **something** ではなく **anything** を使います。これで **without saying anything** (何も言わずに) という熟語のカタマリができます。

【正解の英文】

Mary left the room without saying anything.

6. ベッドで眠っている赤ちゃんは私の妹です。

[in, the baby, my, the bed, sister, sleeping, is]

【考え方のステップ】

1. メインの文を作る

基本構造は「(その) 赤ちゃんは私の妹です」なので、**The baby is my sister** となります。

2. 修飾部分(どんな赤ちゃんか)を作る

「ベッドで眠っている」という説明を赤ちゃん(The baby)に付け加えます。「眠っている」は現在分詞の **sleeping**、「ベッドで」は **in the bed** です。

3. 修飾語の位置に注意する

第2問や第3問と同様に、「sleeping in the bed」という2語以上のカタマリで名詞を修飾するため、名詞の後ろに置きます。したがって「ベッドで眠っている赤ちゃん」は The baby (sleeping in the bed) となります。

【正解の英文】

The baby sleeping in the bed is my sister.



1. My mother knows those sleeping girls.

和訳： 私の母は、あの眠っている女の子たちを知っています。

【詳細な解説】

- **分詞の形容詞的用法**： sleeping は動詞 sleep (眠る) の現在分詞 (V-ing) です。ここでは形容詞と同じ働きをしており、直後の名詞 girls を修飾しています。
- 「眠っている女の子たち」というように、**能動的・進行中**の動作を表す場合は現在分詞を使います。修飾する語が1語(sleeping)の場合は、このように名詞の前に置かれます。
- **文型**： S (My mother) + V (knows) + O (those sleeping girls) の第3文型です。

2. We kept swimming in the pool.

和訳： 私たちはプールで泳ぎ続けました。

【詳細な解説】

- **keep + V-ing**： 「～し続ける」という、状態や動作の継続を表す重要な慣用表現です。
- 動詞 keep は、後ろに現在分詞(または動名詞)を伴うことで、ある行動を途切れることなく続けている状況を描写します。
- in the pool (プールの中で) は、場所を表す前置詞句(副詞句)として働き、泳いでいる場所を特定しています。

3. I heard my name called.

和訳： 私は自分の名前が呼ばれるのを聞きました。

【詳細な解説】

- **知覚動詞の第5文型**： hear (聞こえる、聞く) は知覚動詞です。知覚動詞は「**知覚動詞 + O (目的語) + C (補語)**」の形で使われます。
- **過去分詞の選択**： 目的語の my name (私の名前) と、補語の called (呼ばれる) の間には、「名前が(誰かによって)呼ばれる」という受動(受け身)の関係があります。そのため、現在分詞(calling)ではなく過去分詞の called が使われています。
- **文型**： S (I) + V (heard) + O (my name) + C (called) の第5文型です。

4. It's too warm here. Would you mind my opening the window?

和訳： ここは暑すぎます。私が窓を開けても構いませんか？

【詳細な解説】

- **状況の It**： 前半の文の It は、天候や気温、状況などを表す際に使われる主語で、日本語には訳しません。
- **Would you mind V-ing?**： 直訳すると「あなたは～することを気にしますか？」となり、「～していただけますか?」「～しても構いませんか?」と丁寧にお願いや許可を求める表現です。mind は目的語に不定詞をとれず、必ず動名詞 (V-ing) をとる動詞です。
- **動名詞の意味上の主語**： my opening の my が重要なポイントです。これは動名詞 opening の「意味上の主語」として働いています。「あなたが窓を開ける」のではなく、「私 (my) が窓を開ける」ことを気にしますか、と尋ねています(口語では me opening と目的格が使われることもあります)。

5. Do you remember seeing him somewhere?

和訳： 彼にどこかで会った（見かけた）ことを覚えていますか？

【詳細な解説】

- **remember + 動名詞 (V-ing)**：動詞 remember は、後ろに動名詞が来るか不定詞 (to V) が来るかで意味が大きく変わります。
 - remember + V-ing = (過去に) ～したことを覚えている
 - remember to V = (これから) 忘れずに～する
- ここでは動名詞の seeing が使われているため、「過去に彼に会ったこと」を覚えているか、と過去の出来事について尋ねています。

6. I could see the beautiful moon through the broken window.

和訳： 私はその割れた窓越しに、美しい月を見ることができました。

【詳細な解説】

- **分詞の形容詞的用法**：broken は動詞 break (割る、壊す) の過去分詞です。ここでは形容詞として働き、直後の名詞 window を修飾しています。
- 窓は自ら割るのではなく「(何かに) 割られる」「割れてしまった」という**受動・結果**の状態にあるため、現在分詞 (breaking) ではなく過去分詞の broken が使われます。
- through は「～を通して、～越しに」という意味の前置詞です。

7. You should be careful in crossing the street.

和訳： 通りを横断する際には、注意する必要があります。

【詳細な解説】

- **前置詞 + 動名詞**：in は前置詞です。前置詞の後ろに動詞を置く場合は、名詞の働きを持つ動名詞 (V-ing) にしなければならないというルールがあります。そのため cross ではなく crossing になっています。
- **in V-ing**：「～する時に、～する際に、～するにおいて」という意味を表す表現です。接続詞を使って when you cross the street と言い換えることもできます。
- should be careful は「注意する (be careful) べきである (should)」という助動詞を用いた表現です。

1. Oliver is proud that he is a dentist.

正解： Oliver is proud of (**being**) a dentist.

- **解説**：
 - **主語の確認**：「誇りに思っている」のは Oliver、「歯医者である」のも he (=Oliver) です。主語が同じなので、動名詞の前に特定の人物を置く必要はありません。
 - **時制の確認**：メインの動詞が is proud (現在形)、that 節の中も is (現在形) です。同じ時間軸の出来事なので、単純な動名詞 **being** を使います。

2. Oliver is proud that he was a dentist.

正解： Oliver is proud of (**having**) (**been**) a dentist.

- **解説**：
 - **主語の確認**：1 問目と同様に主語は同じ (Oliver = he) なので、意味上の主語は不要です。
 - **時制の確認**：メインの動詞は is proud (現在)、that 節の中は was (過去) です。「(昔) 歯医者だったことを、(今) 誇りに思っている」という時間のズレがあります。
 - 過去の出来事を動名詞で表すためには、完了形の **having + 過去分詞** を使います。be 動詞の過去分詞は been なので、**having been** が入ります。

3. Sophia is proud that her son is a lawyer.

正解： Sophia is proud of (**her**) (**son**) (**being**) a lawyer.

- **解説**：
 - **主語の確認**：「誇りに思っている」のは Sophia ですが、「弁護士である」のは her son (彼女の息子) です。主語が異なるため、動名詞の直前に意味上の主語として **her son** (または her son's) を置く必要があります。
 - **時制の確認**：メインの動詞が is proud (現在)、that 節の中も is (現在) です。時制は同じなので、動名詞はそのまま **being** になります。

4. Sophia is proud that her son was a lawyer.

正解： Sophia is proud of (**her**) (**son**) (**having**) (**been**) a lawyer.

解説：

- **主語の確認**：3問目と同様、「誇りに思う」主体（Sophia）と、「弁護士だった」主体（her son）が異なります。したがって、動名詞の前に **her son** を置きます。
- **時制の確認**：メインの動詞は is proud（**現在**）、that 節の中は was（**過去**）です。時間のズレがあるため、動名詞は完了形の **having been** にしなければなりません。
- この2つのルールが組み合わさった結果、her son + having been となります。



1. 私の父は朝の散歩を楽しみます。

正解： My father (**enjoys**) (**taking**) a walk in the morning.

- **解説**:
 - 「～して楽しむ」は動詞 enjoy を使いますが、enjoy の目的語には必ず動名詞 (-ing) をとります（不定詞の to do は不可）。
 - 「散歩をする」は take a walk なので、これを動名詞にして taking a walk とします。
 - 主語が My father（3人称単数）で現在の習慣を表すため、enjoy には三単現の s をつけて enjoys となる点に注意してください。

2. 彼女は私に紙で作った人形をくれました。

正解： She gave me a doll (**made**) (**of**) paper.

- **解説**:
 - 「紙で作られた人形」と後ろから名詞（doll）を修飾するために、**過去分詞 made** を使います。
 - 「～で作られた」は be made of～ と be made from～ がありますが、材料の性質が変わらず見てすぐに「紙」とわかる場合は made of を使います。

3. 辞書を使わずにこの物語を読みなさい。

正解： Read this story (**without**) (**using**) a dictionary.

- **解説**:

- 「～しないで、～せずに」は前置詞 without を使います。
- 前置詞の後ろに動詞を置く場合は、必ず動名詞 (-ing) にするというルールがあります。したがって、use を using にします。

4. 私は、彼がジョンと一緒に通りを走っているのを見かけました。

正解： I saw (**him**) (**running**) with John along the street.

- **解説**:
 - 知覚動詞（see, hear, feel など）を用いた 「**see + O（目的語） + -ing（現在分詞）**」 で「O が～しているのを見る」という表現になります。
 - 彼（he）を目的格の him にし、「走っている（動作の最中）」を表すために run の現在分詞である running（nを重ねることに注意）を入れます。

5. 英語を話すときに間違えることを恐れてはいけません。

正解： Don't be afraid of (**making**) mistakes in (**speaking**) English.

- **解説**:
 - 「間違える」は make a mistake と表現します。前置詞 of の後ろなので動名詞 making になります。
 - 「英語を話すことにおいて」という部分も、前置詞 in の後ろなので speak を動名詞 speaking にします。

6. 私はこの本を読むと泣かずにはいられない。

正解： I (**cannot** [または **can't**]) help (**crying**) when I read this book.

- **解説**:
 - 「**cannot help -ing**」は「～せずにはいられない、つい～してしまう」という非常に重要な重要構文です。ここでの help は「助ける」ではなく「～を避ける」という意味合いを持ちます。
 - 「泣く」を crying にします。（cannot は1語扱いで解答欄に入るのが一般的ですが、文字数やスペースによっては can't の場合もあります）

7. 彼は出かけるときは必ず傘を持って行きます。

正解： He (**never**) goes out without (**taking**) an umbrella with him.

- **解説**:

- 「never ... without -ing」 で「～なしでは決して...しない＝...する時は必ず～する」という二重否定の構文になります。
- 前半の否定語に never を入れ、後半は前置詞 without の後ろなので「傘を持っていく (take an umbrella)」の take を taking にします。

8. 彼は友人たちに何もしてあげられなかったのが恥ずかしかった。

正解: He felt ashamed of (**having**) (**done**) nothing for his friends.

- 解説:
 - 「恥ずかしく思った (felt)」のは過去のことですが、「何もしてあげられなかった」のはそれよりもさらに前のことです。
 - 動名詞の表す時制が、述語動詞よりも「過去」であることを示す場合、完了動名詞「**having + 過去分詞**」を使います。
 - 「何もする」＝ do nothing を完了形にして having done nothing とします。

9. 私はあまりにも多くの質問をされるのにあきあきしている。

正解: I am tired (**of**) (**being**) (**asked**) too many questions.

- 解説:
 - まず、「～に飽きている、うんざりしている」は be tired of～ という熟語を使います。
 - 次に、自分が「質問をする」のではなく「質問をされる」という受動の意味を持たせるため、動名詞の受動態「**being + 過去分詞**」を使います。being asked とすることで「質問されること」になります。

10. 私は彼女を1時間あまりも待たせてしまいました。

正解: I kept (**her**) (**waiting**) (**over**) an hour.

- 解説:
 - 「keep + O + -ing」 で「O を～したままにしておく」という状態の継続を表す構文です。
 - 彼女 (she) を目的格 her にし、wait を waiting にします。
 - 「1時間 (の間)」は for an hour が定型表現として使われます。(日本語の「あまり (＝～以上)」に焦点を当てて over an hour も考えられますが、基本熟語としては for をおさえてください)

11. またお目にかかるのを楽しみにしています。

正解: I am looking (**forward**) (**to**) (**seeing**) you again.

- 解説:
 - 「look forward to -ing」 で「～することを楽しみに待つ」という頻出表現です。
 - ここで最大の注意点は、この to は不定詞 (to do) の to ではなく、前置詞の to であるという点です。したがって、後ろには動詞の原形 (see) ではなく、動名詞 (seeing) が来るのが絶対のルールです。テストで最もよく狙われるポイントの一つです。

9

1. 熟語の言い換えと動名詞

正解: You should (**avoid**) (**visiting**) someone after nine at night.

- 解説: 元の文にある call on は「(人)を訪問する」という意味の群動詞(熟語)です。これとほぼ同じ意味を持つ1語の動詞が visit です。また、「～するべきではない (should not + 原形)」という否定の助言は、「～するのを避けるべきだ」という意味の avoid + 動名詞 (-ing) を使って表現することができます。最初の文字が a と指定されているため、avoid が入り、その目的語として visiting が続きます。
- 重要ポイント: avoid の後ろは必ず動名詞 (-ing) になり、不定詞 (to do) は取れません (× avoid to visit)。

2. 前置詞と完了動名詞

正解: She is ashamed (**of**) (**having**) (**said**) such a foolish thing.

- 解説: 「～を恥じている」は、be ashamed of ～ という熟語を使います。前置詞 of の後ろには名詞または動名詞が来ます。ここで最も重要なのが 時制 (時間のズレ) です。元の文を見ると、主節の動詞は is (現在形) ですが、恥じている理由である従属節の動詞は said (過去形) になっています。このように、「述語動詞よりも前の出来事」を動名詞で表す場合、単なる動名詞 (saying) ではなく、完了動名詞 (having + 過去分詞) を使うというルールがあります。
- 文の構造: of + having + said (say の過去分詞)

3. 「～せずにはいられない」の重要構文

正解: We couldn't (but) cry when we saw the scene.

- 解説: 元の文の cannot help -ing は「～せずにはいられない」という意味の超頻出構文です。これと全く同じ意味になるのが cannot but + 動詞の原形 という構文です。書き換え後の文を見ると、空欄の直後が crying ではなく cry (原形) になっています。この形から、入る言葉は but であると判断できます。
- 重要ポイント:
 - cannot help -ing
 - cannot but 原形 この2つのセットはテストで頻繁に問われるため、動詞の形 (-ing か原形か) とセットで覚えておきましょう。

4. 不定詞を用いた SVOO/SVOC 構文の that 節への書き換え

正解: I expected (that) (he) (would) go there instead of me.

- 解説: 元の文は expect + O + to do (O が～するだろうと予期する・期待する) という形です。これを、接続詞 that を用いた節 (S が V するだろうと予期する) に書き換える問題です。目的語であった him を主語 he に変え、動詞の前に「～するだろう」という助動詞 (will/would) を補います。ここで注意すべきは 時制の一致 です。主節の動詞が expected と過去形になっているため、that 節の中の助動詞も過去形の would に合わせる必要があります。
- 文の構造: expected + that + he + would

5. 否定の完了動名詞

正解: The man admitted (not) (having) (told) the truth.

- 解説: 「～したことを認める」は admit + 動名詞 (-ing) で表すことができます。この問題には2つの罠が含まれています。
 1. 否定形: 元の文が hadn't told と否定文なので、動名詞も否定形にする必要があります。動名詞の否定は、直前に not を置きます。
 2. 時制のズレ: 主節が admitted (過去形) であるのに対し、that 節の中は hadn't told (過去完了形) となっており、ここでも「認めた時点よりも、さらに前に嘘をついた (真実を言わなかった)」という時間のズレが発生して

います。したがって、第2問と同じく 完了動名詞 (having + 過去分詞) を使います。

- 文の構造: not + having + told (tell の過去分詞)

10

第1問

生き字引と呼ばれている私の父に解けない問題はない。 My father, who is called (a) (walking) (dictionary), can solve every problem.

- 正解: a, walking, dictionary
- 解説: 「生き字引 (何でも知っている人)」は、英語で a walking dictionary (歩く辞書) と表現します。とてもよく使われる比喻表現です。「辞書のように豊富な知識を持ち歩いている人」というニュアンスから来ています。関係代名詞の非制限用法 (, who) が使われており、「私の父は (ちなみに歩く辞書と呼ばれていますが)、あらゆる問題を解決できる」という文構造になっています。

第2問

彼はオリンピックに参加したことを誇りに思っている。 He is proud of (having) (taken) (part) (in) the Olympic Games.

- 正解: having, taken, part, in
- 解説: ここで問われているのは「完了動名詞」と「熟語」の2つの知識です。
 1. 熟語: 「～に参加する」は take part in ~ または participate in ~ と言います。今回は括弧の数から take part in を使います。
 2. 文法 (完了動名詞): 「誇りに思っている」のは「今 (is)」ですが、「参加した」のは「過去」のことです。このように、文のメインの動詞 (is) よりも前の時間の出来事を動名詞で表すときは、having + 過去分詞 の形 (完了動名詞) を使います。したがって、of の後ろに having taken part in を入れると、括弧の数 (4つ) にピッタリ当てはまります。

第3問

彼女が車の運転に慣れるまでどのくらいかかるだろう。 I wonder how long it will be before she (gets) (used) (to) (driving) a car.

- **正解：** gets, used, to, driving
- **解説：** 間違いやすい文法ルールが2つ隠れている、非常に重要な問題です。
 1. **熟語：** 「～に慣れる」は **get used to -ing** (または become used to -ing) と表現します。ここでの to は不定詞の to ではなく**前置詞**なので、後ろには動詞の原形ではなく動名詞 (-ing) が来ることに注意してください。「車の運転」は driving となります。
 2. **文法 (時制のルール)：** before (～するまで) が導く節は、「時や条件を表す副詞節」と呼ばれます。英語のルールでは、**時や条件を表す副詞節の中では、未来のことでも現在形を使う**という鉄則があります。文全体は will be と未来形ですが、before 節の中にある she の動詞は gets と現在形 (三単現の s が必要) になります。

第4問

試験をもう一度受けてみたらどうですか。 What do you (say) (to) (taking) the examination once more?

- **正解：** say, to, taking
- **解説：** 相手に提案をするときの重要構文 **What do you say to -ing?** (～するのはどうですか?) を使います。
 - ここでも第3問と同じく、to は前置詞なので、後ろには必ず名詞や動名詞 (-ing) が来ます。
 - 「試験を受ける」は take an examination です。これを動名詞にして taking とします。(※ How about -ing? や Why don't you ~? と同じような意味で使われますが、空欄の語数と形からこの構文を導き出します。)

第5問

先生の悪口を言ってしまったことを後悔している。 I regret (having) (spoken) (ill) (of) the teacher.

- **正解：** having, spoken, ill, of
- **解説：** こちらも第2問と同じく「**完了動名詞**」と「**熟語**」の組み合わせです。
 1. **熟語：** 「～の悪口を言う」は **speak ill of** ~ という決まった言い回しがあります。(反対に「～をほめる」は speak well of ~ となります)。

2. **文法：** regret は後ろに動名詞をとって「～したことを後悔する」という意味になります。単に speaking ill of とすることも可能ですが、括弧が4つあるため、「(過去に) 言ってしまった」という事実をより明確にする完了動名詞 (having + 過去分詞) を使用し、having spoken ill of とするのが正解です

11

1. 芝生の上で寝そべっている女の子は、私のいとこです。(1語不足)

【正解】 The girl lying on the grass is my cousin. (不足語: lying)

- **解説：**
 - **主語と動詞の骨格：** この文の基本構造は「The girl (女の子は) is (です) my cousin (私のいとこ)」です。
 - **分詞による修飾 (後置修飾)：** 「芝生の上で寝そべっている」という部分が、「女の子 (The girl)」を後ろから修飾します。「寝そべる」は動詞 lie ですが、ここでは進行中の状態を表す現在分詞形 lying (lie - lay - lain - lying) を使います。「芝生の上で」は on the grass です。
 - これらを組み合わせて lying on the grass というカタマリを作り、The girl の直後に置くため、不足している1語は **lying** となります。

2. キツネがその黒い車にひかれるのを見ました。(1語不足)

【正解】 I saw a fox run over by the black car. (不足語: over)

- **解説：**
 - **知覚動詞の構文 (SVOC)：** 「S が O が～する (される) のを見る」は、知覚動詞 see を使って【see + O + C】の形で表します。この時、O と C が「受動 (ひかれる)」の関係であれば、C には過去分詞が入ります。
 - **群動詞 (熟語) の受動態：** 「(車が) ～をひく」は run over ~ という熟語を使います。キツネは「ひかれる」側なので、過去分詞の run (run - ran - run) を用いて run over by ~ とします。
 - 与えられた語句には run しかありませんので、不足している1語は **over** です。

3. 勤勉は成功への鍵であることは言うまでもない。

【正解】 It goes without saying that diligence is the key to success.

- 解説:
 - 重要イディオム：「～は言うまでもない」は **It goes without saying that** ~ という決まった表現を用います。(直訳：～ということなしで進む)
 - **that** 節の中身：「勤勉 (diligence) は成功 (success) への鍵 (the key) である」。ここで注意したいのは、「～への鍵」というときの前置詞は of ではなく **to** を用いる点です (the key to success)。

4. 私は彼女がラケットを手にして歩いているのに気がつきました。

【正解】 I found her walking with a racket in her hand.

- 解説:
 - 第5文型 (SVOC)：「O が～しているのに気がつく」は動詞 find を使って、【find + O + 現在分詞(-ing)】で表します。ここでは found her walking (彼女が歩いているのに気がついた) となります。
 - 付帯状況の with：「ラケットを手にして (=手にラケットを持った状態で)」は、【with + 名詞 + 前置詞句】という「付帯状況」を表す構文を使います。with a racket in her hand で「ラケットを彼女の手の中に入れた状態で」という意味になります。

5. 彼はそんなひどい間違いをしてしまったことを恥じている。(1 語不足)

【正解】 He is ashamed of having made such a terrible mistake. (不足語：having)

- 解説:
 - 重要表現：「～を恥じている」は **be ashamed of** ~ と言います。of は前置詞なので、後ろには動名詞 (-ing) が来ます。
 - 完了動名詞：今回の文では、恥じているのは「現在 (is)」ですが、間違いをしたのは「過去」です。このように、本動詞よりも前の出来事を動名詞で表すときは、【having + 過去分詞】を使います。したがって having made となります。
 - 語順のルール：「そんな (そのような) ~」は **such a + 形容詞 + 名詞** の語順になります。such a terrible mistake で「そんなひどい間違い」となります。

6. その石を一人で運ぼうとしても無駄ですよ。

【正解】 It is no use trying to carry the stone by yourself.

- 解説:
 - 重要イディオム：「～しても無駄である」は、動名詞を用いた構文 **It is no use -ing** を使います。
 - 目的語のつながり：「運ぼうとする (試みる)」は try to carry です。これを動名詞にして trying to carry the stone となります。
 - 副詞句：「一人で (自力で)」は by yourself を用います。

7. だれかがピアノを弾いているのが聞こえました。(1 語不要)

【正解】 I heard someone playing the piano. (不要語：to)

- 解説:
 - 知覚動詞の構文 (SVOC)：第2問と同じく知覚動詞 (今回は hear) の構文です。「O が～しているのが聞こえる」は、【hear + O + 現在分詞(-ing)】で表します。
 - したがって、heard someone playing となります。「ピアノを弾く」は play the piano です。
 - 知覚動詞の目的格補語 (C) に「to 不定詞」を使うことは絶対にありません。そのため、to が不要な語となります。

8. 私は風に帽子を吹きとばされた。(1 語不要)

【正解】 I had my hat blown off by the wind. (不要語：was)

- 解説:
 - 使役・被害の構文 (SVOC)：「(自分が) ~を...される」という被害を表す場合、動詞 have を用いて 【have + O + 過去分詞】の形にします。
 - 直訳すると「私は (I) 私の帽子を (my hat) 吹き飛ばされた状態に (blown off) 持った (had)」となります。「吹きとばす」は blow off なので、過去分詞にして blown off です。
 - もし I was blown off... としてしまうと、「私自身が吹きとばされた」という意味になり不自然です。したがって、受動態を作るための **was** が不要です。

9. 放課後、ぼくと泳ぎに行きませんか。(1 語不要)

【正解】 How about going swimming with me after school? (不要語: shall)

- 解説:
 - 提案の表現: 「～しませんか、～するのはどうですか」という提案は、**How about -ing?** を使います。(Shall we ~? と言い換えることも可能ですが、今回は about があるため How about 構文を使います)
 - 「泳ぎに行く」は go swimming です。about の後ろなので動名詞の going にします。
 - すでに How about 構文で文が完成しているため、提案を表す助動詞 **shall** はここでは使う場所がなく、不要語となります。

10. 私たちは1日中、京都市内を見て回った。(1 語不足)

【正解】 We spent the whole day looking around Kyoto. (不足語: looking)

- 解説:
 - 重要構文: 「～して(時間を)過ごす」は、**spend + 時間 + -ing** で表します。
 - 「1日中(丸1日)」は the whole day です。したがって We spent the whole day ~ing の形になります。
 - 「～を見て回る」は look around~ という熟語になります。動名詞にする必要があるため、不足している語は **looking** となります。

12

1. He was proud that he was a doctor.

正解: He was proud (of) (being) a doctor.

【解説】

- 文法ポイント: **be proud that S V** と **be proud of V-ing** の書き換え
- 「彼は医者であることを誇りに思っていた」という意味です。
- 上の文は that 節(主語+動詞)を使って表現していますが、下の文では2語の空欄に当てはめるため、前置詞の **of** を使った形に変えます。

- 前置詞の後ろには名詞(または動名詞)しか置けないため、he was の部分を動名詞の **being** に変換します。主節の主語(He)と従属節の主語(he)が同じなので、動名詞の意味上の主語をあえて置く必要はありません。

2. As soon as he heard the crash, he rushed out of the house.

正解: (On) (hearing) the crash, he rushed out of the house.

【解説】

- 文法ポイント: **As soon as S V** と **On V-ing** の書き換え
- 「ガシャーンという音を聞くとすぐに、彼は家から飛び出した」という意味です。
- As soon as ... (～するとすぐに)という接続詞の表現は、前置詞 **On** + **動名詞 (V-ing)** で書き換えることができます。
- したがって、動詞 heard を原形 hear に戻し、ing をつけた **hearing** とします。

3. Whenever they met, they quarreled.

正解: They never met (without) (quarreling).

【解説】

- 文法ポイント: **never ... without V-ing** (～すれば必ず...する)
- 上の文は「彼らは会うといつも(Whenever)、口論になった」という意味です。
- これを「口論することなしには、決して会わなかった」という二重否定の形にすることで、同じ意味(会えば必ず口論した)を表現する定番の構文です。
- 前置詞 **without** の後ろに、動詞 quarrel の動名詞形 **quarreling** (※イギリス英語では quarrelling) を入れます。

4. Do you mind if I smoke here?

正解: Do you mind (my) (smoking) here? (※ me smoking も正解となります)

【解説】

- 文法ポイント: 動名詞の意味上の主語
- 「ここでタバコを吸っても構いませんか?(私がタバコを吸うことを気にしますか?)」という意味です。
- mind if S V (S が～してもいいですか?)は、動詞 mind の目的語に動名詞をとることで書き換えられます。

- 単に mind smoking とすると「(あなた自身が) タバコを吸うのを気にしますか」という意味になってしまうため、動名詞の直前に「誰が吸うのか(意味上の主語)」を明記する必要があります。
- 動名詞の意味上の主語は、原則として所有格(my) または目的格(me) を置きます。

5. David couldn't but believe what his son said.

正解: David couldn't (help) (believing) what his son said.

【解説】

- 文法ポイント: cannot but V(原形) と cannot help V-ing の書き換え
- 「デイビッドは息子の言うことを信じざるを得なかった」という意味です。
- cannot but + 動詞の原形 は「～せざるを得ない(～する以外にない)」という意味のやや硬い表現です。
- これと全く同じ意味を表す頻出熟語が cannot help V-ing です。この help は「助ける」ではなく「避ける・抑える」という意味合いがあり、「信じることを抑えられない＝信じざるを得ない」となります。

6. What is the use of talking with him?

正解: It is (no) (use) talking with him.

【解説】

- 文法ポイント: It is no use V-ing (～しても無駄である)
- 「彼と話して何の役に立つのか? (いや、役に立たない)」という反語的な意味から、「彼と話しても無駄だ」という意味になります。
- What is the use of V-ing? (～して何の役に立つのか) は、動名詞を用いた重要構文 It is no use V-ing で書き換えることができます。

7. To know is one thing, to teach is quite another.

正解: Knowing is quite (different) from teaching.

【解説】

- 文法ポイント: A is one thing, B is another (A と B は別のことだ)

- 上の文は直訳すると「知っていることは一つのことであり、教えることは全く別のことだ」となり、「知っていることと教えることは全く別物だ」という意味の有名な構文です。
- これをわかりやすく言い換えると、シンプルに「知ることは、教えることとは全く異なる(different)」となります。
- A is different from B (A は B とは違う) という基本熟語と、主語と目的語が不定詞(To know / to teach) から動名詞(Knowing / teaching) に変化している点に注目して解く問題です。

13

1. 完了動名詞と受動態の組み合わせ

【解答】 She is ashamed (of) (having) (been) scolded by her teacher.

【解説】

- 文法のポイント: 「be ashamed of ~ (～を恥じている)」、完了動名詞、動名詞の受動態
- 考え方のステップ:
 1. be ashamed that S V は、前置詞 of を使って be ashamed of ~ing (動名詞) に書き換えることができます。
 2. 時制に注目します。主節は is (現在形) ですが、that 節の中は was scolded (過去形) です。このように、述語動詞よりも「前の出来事」を表す場合、動名詞は「完了動名詞(having + 過去分詞)」の形にします。
 3. さらに、「叱られた」という「受動態(be + 過去分詞)」の意味を含める必要があります。
 4. これらを組み合わせると、「having + been + 過去分詞」となります。したがって、空欄には of, having, been が入ります。

2. 完了動名詞の否定形

【解答】 I'm sorry for (not) (having) (told) you the truth.

【解説】

- **文法のポイント:** 「be sorry for ~ (～を申し訳なく思う)」、動名詞の否定形、完了動名詞

- **考え方のステップ:**

1. 1 問目と同様に時制を確認します。主節は I'm (現在形) で、that 節の中は didn't tell (過去形) です。ズレがあるため、ここでも「完了動名詞 (having + 過去分詞)」を使います。
2. 次に、「言わなかった」という否定の意味にする必要があります。**動名詞を否定する場合、否定語 (not や never) は動名詞の「直前」に置きます。**
3. したがって、「not + having + 過去分詞(told)」の語順になります。空欄には **not, having, told** が入ります。

3. 動名詞の意味上の主語と否定

【解答】 He insisted on **(her) (not) (going)** there alone.

【解説】

- **文法のポイント:** 「insist on ~ (～を強く主張する)」、動名詞の意味上の主語、動名詞の否定
- **考え方のステップ:**
 1. insist that S V は、前置詞 on を用いて insist on ~ing に書き換えます。
 2. that 節の主語は she であり、文全体の主語 He と異なります。**動名詞の動作主 (意味上の主語) が文の主語と異なる場合、動名詞の直前に「所有格」または「目的格」を置きます** (she の場合はどちらも her です)。
 3. そのうえで、「行かないこと」と否定にするため、動名詞 going の直前に not を置きます。
 4. 語順は「意味上の主語 + not + 動名詞」となるため、空欄には **her, not, going** が入ります。

4. 前置詞の後ろの動名詞と意味上の主語

【解答】 I can't understand the reason for **(his) (being)** late every day. (※ his の代わりに目的格の him でも正解となります)

【解説】

- **文法のポイント:** 前置詞 for + 動名詞、動名詞の意味上の主語

- **考え方のステップ:**

1. 上の文の why he is late (なぜ彼が遅刻するのか) を、下の文では the reason for ~ (～の理由) という名詞句で表現しようとしています。
2. 前置詞 for の後ろには名詞 (または動名詞) が来ます。「遅刻する (is late)」を動名詞にすると **being late** になります。
3. 遅刻するのは文の主語「私 (I)」ではなく「彼 (he)」なので、3 問目と同様に動名詞の直前に意味上の主語を置きます。he の所有格である his (または目的格の him) を置きます。
4. したがって、空欄には **his (または him), being** が入ります。

5. 動名詞の重要な慣用表現

【解答】 There is **(no) (telling)** what might happen next.

【解説】

- **文法のポイント:** 動名詞の慣用表現 「There is no ~ing」
- **考え方のステップ:**
 1. これは理屈ではなく、形として覚えておくべき重要な構文です。There is no ~ing で「～することはできない (=It is impossible to ~)」という意味になります。
 2. 上の文の tell には「言う」だけでなく、「(未来のことなどを) 予測する、わかる」という意味があります。
 3. It is impossible to tell ~ をそっくりそのまま慣用表現に当てはめると、There is no telling ~ となります。空欄には **no, telling** が入ります。